園　歌

作詞: 内海暢子　作曲: 一宮道子

1

おはよう、おはよう　ひがのぼる
みどりのもりのようちえん
なすのおやまもよくみえて
きれいなきれいな　ようちえん
みふじようちえん　みふじようちえん

2

みんな　なかよく
にこにこと
ひろいおにわで
あそぶとき
おやまのことりも
とんでくる
たのしい　たのしい
ようちえん
みふじようちえん
みふじようちえん

3

はるのひ　あきのひ　みなうれしい
やさしいせんせいとわになって
ぼくもわたしもげんきです
だいすき　だいすき　ようちえん
みふじようちえん　みふじようちえん

平成３１年度

学校法人那須内海学園 那須みふじ幼稚園

園児募集要項

募集対象

2年保育・3年保育
（定員になり次第締め切らせていただきます。）

年　　令

満4歳・満3歳（平成31年4月2日現在）

経　　費

保育料（自己負担額）
保育料については、ご家庭の所得状況等により自己負担額を各市町村が決定いたします。
・施設設備資金　1,000円/月　　・バス協力費　4,000円/月
・誕生会費　　100円/月
・給 食 費　1食280円（実食数徴収）飲物代 300円/月
・冬期暖房費(１冬)4,000円（12月一括納入）
保護者会経費…入園児の保護者様には必ず入会していただきます。
・保護者会入会費 1,000円（入会の際のみ納入）
・保護者会会費　　700円/月
※給食は毎週月・水・金曜日に実施。費用は実費です。
※預かり保育
　平日午後６時まで・600円/日・6,000円/月
　夏休み・春休み午前8時～午後6時1,200円／日
※未就園児の母と子の会・2歳児クラスもあります。詳しくは幼稚園にお問い合わせください。

入園案内配布受付開始　9月3日(月) 9時より

本園の保育方針に賛同し、入園を希望される方は、入園願書を提出して下さい。

※お申込みをされた方は、後日自治体の認定を受けていただきます。詳細については市役所や町役場の担当窓口にお問い合わせください。
※通園バスを利用される方は、通園バス維持協力会に加入していただきます。入園願書と共に申込書をお出しください。

入園面接について

簡単な面接を行います。後日詳細をお知らせいたしますのでお子様と同伴でおいで下さい。

学校法人 那須内海学園

那須みふじ幼稚園

入園案内

みどりの森のたのしい幼稚園
知情意のバランス・素直な人格形成

本園には併設のタイヤ遊園もあります

〒325-0001 那須郡那須町大字高久甲6394-1
TEL: 0287-62-1350 FAX: 0287-62-1353
www.nasu-mifuji.ed.jp

創立者・初代園長
故・内海暢子

ごあいさつ

私たちの「那須みふじ幼稚園」は那須街道の御料林と那珂川沿いの県有林にはさまれた、緑豊かな環境にあります。昭和51年、初代園長内海暢子によって創設されて以来、3000名以上の子どもたちをお預かりして現在にいたっています。卒園児のなかには、ふたたび保護者として、教諭として、あるいは評議員として、本園に関わってくださった方々もおられます。

私たちの保育の柱の一つにシュタイナー教育があります。初代園長は、日本ではまだシュタイナー教育がまったく知られていなかった昭和40年に、当時ドイツ留学中であった髙橋弘子前園長とともにヴァルドルフ（シュタイナー）幼稚園を見学しました。そして、そこでの子どもたちの生きいきとした姿に感動して、もしこのシュタイナー教育の理念を日本の自然と文化の中に取り入れることができれば、理想の保育が生まれるのではないかと考えたのです。そして、日本舞踊の花柳和先生をはじめ、この幼稚園を支えてくれた教職員、園外の研究者や専門家の先生方、そして地域の皆様のお力を得て、独自の「みふじの保育」が実践されてきました。現在では、保育者が愛をもって寄り添う日々の保育を中心に、ピアノ、陶芸、日本舞踊、サッカー教室を含む「芸術センター」の課外活動、職員が心をこめて手入れしている自前の畑や四季の祭りと行事を通して、子どもたちが日本の自然と伝統文化に触れつつ、一人ひとりのかけがえのない個性が育つことのできる環境を用意しています。

私たちの幼稚園には、子どもたちを中心に、そこに関わってくださった人々の知恵と経験が生きています。これからも保護者の皆様と力を合わせて、本当に子どもたちのためになる、よりよい保育を目指してまいります。みふじ幼稚園にご関心をお持ちいただけましたら、どうぞお気軽に見学にお立ち寄りください。

園長　髙橋　明男

「那須みふじ幼稚園の保育」
7つの柱

1 手本と模倣

[あみもの]

幼児は「模倣」を通して学びます。保育者（大人）自身が、ふだんの生活の中で「お手本」であることが、私たちの保育の基本です。特に、大人の「手仕事」や言葉遣いによって、子どもたちに模倣の機会を提供していきます。

2 縦割り保育と社会性

異年齢の子どもたちが一緒に過ごすことは、年長の子が年少の子の面倒をみたり、年少の子が年長の子の真似をしたりする「家庭とは別の兄弟姉妹の体験」を提供するとともに、お互いを心にかけ助け合う社会性を育てます。

[自由遊び]

3 感覚への豊かな刺激

[いちご狩り]

幼い子どもは、見たり、聞いたり、触ったり、匂いを嗅いだり、味わったりすることで、一人ひとりの感性を形成していきます。そのため、プラスチックや機械の触感や音声ではなく、自然素材の多様な感触、生きた人間の語りかけや歌声など、子どもたちの環境の中の感覚刺激の質と豊かさを大切にしています。

4 自発的な運動

[サッカー]

子どもたちは走り回ったり、飛び跳ねたり、よじ登ったりしながら、運動能力を発達させていきます。サッカーをはじめ、園庭での外遊びも、子どもが自分から、楽しさをもって動くことができるように考えています。

5 創造性の源としての想像力

テレビや絵本よりも、まず素話や手遊び、サークルゲームに触れたり、また園内でのお誕生会、クリスマス劇、昔話の劇を子どもたちが演じることで、自分の内面からイメージをつくりだす力（想像力）を育て、将来の柔軟な創造性の基盤をつくります。

[クリスマス会]

6 リズム

[お泊まり保育]

安定した1日の流れ、曜日ごとの活動、季節の祭り、植物や作物の種まきと収穫などを通して、健康の基盤である「自然のリズムと調和した心身のリズム」を育てます。

7 個を育てる伝統文化

日本では「出る杭は打たれる」と言われますが、本来は個人の繊細な感性と豪胆な勇気を育む精神性があります。日本人が尊ぶ「和」とは、一人ひとりの自己が他者と共に創造する社会的調和と捉え、幼児期にこそその基盤が築かれると考えています。

[お扇子]